

——日本福祉大学 学生 Feedback——

從日本福祉大學參與的學生們接受了一項挑戰，使用了 70 張投影片進行演講。這實在太多了，肯定會導致演講失敗。當然，我們住在大學宿舍，與來自泰國、越南、台灣和香港的國際學生團隊進行持續的討論，都致力於提升演講水平。在大學裡，我們接受了演講速度的指導，目標約為每分鐘 100 個字左右。強調的是與觀眾互動的口語風格。我們通過參與世界青年大會的實踐和觀看去年的 ASEP 視頻進行了多次預先學習。起初，我們以為前輩的經驗會支持我們的演講，但台灣的團隊採用了完全不同的方法。首先，佢哋無視每位老師提出嘅向曾經嘅前輩學習卓越演講嘅態度，揀擇自己創造新嘢嘅方向。唔幸地，由於我哋缺乏足夠嘅對話能力或者在英語演講中缺乏說服力，遺憾嘅係，我哋揀擇按照佢哋自己嘅方式行事。結果，最後一日完成嘅演講，超過 70 張幻燈片，8 分鐘內幾乎無法完成，我哋曾預計呢可能會以失敗告終，但結果比我哋諗像嘅更糟糕。

H.R: 10 月開始嘅演講準備大相逕庭。我哋追求世界和平，關注 SDG 16「和平同正義」。喺 10 月，以色列軍隊入侵加薩，當時「兒童同婦女被殺害」嘅事實令我哋感到震驚。點解會發生呢啲嘢？總之，我哋停止互相殺害，為此我哋需要咩嚟推動呢種情況？我哋思考咗美國同日本之間嘅關係，思考「和平」嘅方式。從戰爭到今天，我哋嘅同盟關係中已經度過咗 80 年嘅和平。係咩嚟嘅帶嚟咗和平，係唔可避免嘅，解決嘅係「民主主義嘅力量」同埋「用言語戰鬥、用筆戰鬥嘅力量」。8 月參加 WYM 嘅嚟自馬來西亞同菲律賓嘅參與者亦都同意呢個觀點。

WT: 之後，我哋製作咗一個類似 WYM 嘅劇本，以「以口語為主」嘅方式。「而家，喺加薩嘅巴勒斯坦，好多市民被殺害，過去一個月嘅戰鬥中，已經有 1 萬多名市民被殺害。呢係哈馬斯同以色列軍隊嘅戰鬥，大約有 4000 名係兒童。我哋對於啲被導彈擊中、被廢墟埋葬同死咗嘅細路仔哭喪棒喪，我哋難道唔可以做啲咩嗎？日本政府以北海道外務大臣為中心，在 G7 上呼籲，總之，宣布停戰。停戰意味住停止互相殺害。接下嚟嘅步驟係通過「對話」嚟實現民主主義嘅基本。我哋學生喺和平嘅台灣同和平嘅日本生活緊，我哋嘅朋友同細路仔唔會係我哋面前被殺害。然而，對於而家嘅事，我哋一定能夠做啲嘢。我哋同加薩嘅市民、以色列嘅人而家都喺呢個地球上生活。透過傳達世界係睇緊嘅信息，呢係我哋要做嘅嘢。喺海外，示威活動喺發生。如果世界變咗，佢哋亦都會變咗。然而，我哋唔可以忽視啲拎條槍、瞄準對方嘅國家，世界呼籲佢哋停止殘殺，考慮其他方法，實施民主主義嘅聲音。透過呢個亞洲學生交流計劃，我哋希望透過喺呢度嘅演講，履行作為亞洲年輕人嘅責任。停止戰爭，執行停戰，唔好殺害兒童，唔好殺害普通市民。呢就係我哋嘅呼聲。」

喺經過多次發送同傳遞嘅部分，我哋呼籲將同台灣有關嘅部分分開進行練習，最終以人權為軸心展開。佢嘅觀點涉及「基於我哋嘅經驗針對喺台灣國內針對外國留學生嘅歧視」，呢都係非常有趣嘅一部分。我哋考呢之後我哋將係韓國進行演講，一定要珍惜呢次嘅教訓。

日本福祉大学 参加学生

なんと70枚のシート原稿になってしまった。。。 I.R

もちろん我々は大学のドミトリーに泊まり込みチーム相手であるタイ国籍の学生ベトナム国籍の学生、台湾の学生香港からの留学生のチームとより良いプレゼンテーションを目指して話し合いを続けた。

我々は大学で、1分間のプレゼンで話すスピードはだいたい百単語前後という指導を受けている。またプレゼンテーションのイメージはオーディエンスとのやり取りを中心とした話し言葉を使ったインタラクションで展開すべきというようなことをワールドユースミーティングの実践や去年までの ASEP でのビデオを何回も見て、事前学習を進めていた。

これらの先達の成果が私たちのプレゼンテーションを支えてくれるものと思っていたが台湾側は全く違った方法でアプローチをした。

まず第一にそれぞれの先生から提示されたかつての先輩たちの優秀プレゼンに学ぶという姿勢が全く見られなかった。

これらを無視、自分達で新しいものを作り出そうと頑張っていた。先達を無視するという、革新的？な方法であった。「充分な説得力を持たない私たちの英語は残念ながらそれに従うという形を選択してしまった。

その結果

最終日に出来上ったプレゼンテーションはシート数が 70 を超えると 8 分ではできるような代物ではなかった。絶対に失敗に終わるだろうと予想したが結果はそれ以上に惨憺たるものであった。

失敗を学びに変える H.R

10月からスタートしたプレゼンテーション準備は、当初から大きく食い違っていた、私たちは World-Peace を望む、SDGs16“ 平和と公正”で話し合おうとした。10月にガザでのイスラエル軍の侵攻が始まり、「子供が、女性が殺されている事実」に愕然としていたときであった。なんであんなことが起きるんだ？ とにかく、殺し合いを無くそう、そのためには何がこの事態を動かすんだろうと考えた。アメリカと日本との関係を今

日にまで気付きあげた「平和」の在り方を振り返った。今の同盟の平和な関係にまで殺し合いから80年もかかっている。何がもたらしたか、それは殺さず、解決する「民主主義の力」「言葉で戦う、ペンで戦う力」だ。8月にWYM 参加したマレーシアからの参加者も、フィリピンからの参加者もこの考えに賛成してくれた。

WT

そして次のようなスクリプトを、WYM で学んだように”話し言葉中心で作った“

“今 パレスチナの ガザにおいて、多くの市民が 殺されている これまで一ヶ月の戦いで 1万人以上の 市民が殺害された。ハマスとイスラエルの軍隊との戦いである。約 4000 人が 子供である。ミサイルを撃ち込まれ 瓦礫に埋もれ 死んで 行く子供たちに 私たちは 何かできないのであろうか。日本は 上川 外務大臣中心にG7 に呼びかけ とにかく 停戦することを共同声明として 発表した。

停戦とは 殺し合うこと やめることである。

次のステップとしては 民主主義の基本である「話し合い」であろう。

私たち学生は 平和な台湾 平和な日本で 暮らしている。私たちの友達や子供たちが目の前で殺害されるということはない。

しかし今 起きていることに対して 何か何かできること があるに違いない。

私たちも ガザの市民も イスラエルの人たちも 今この同じ地球に生きている。

世界が見ていることを、届くメッセージで 伝えることである。

海外ではデモンストレーション が 起きている。世界が動けば彼らも動く

しかし 銃を持ち 相手に 狙いを定めている 国々に対しては 世界が 殺し合いはやめろ ほかの方法を考える 民主主義を実行しろという声 を無視することはできない。

私たちはこの ASEP を通して、ここで発表することによって 今を生きる アジアの若者として その責任を果たしたいと 思います。

戦争をやめろ、停戦を実行しろ、子供を殺すな、一般市民を殺害するな。

これが私たちの声です。

###

何回も送り、渡したの部分と、台湾側の部分を切り分けて練習し、最終的に人権という軸で展開しようと呼びかけた。彼の意見は“自分たちの体験を下にした外国人留学生に対する台湾国内の差別について”であった。これも大変興味深いものであったが、話し合いによって調整を考えた。しかしながら1週間に1度2時間程度の話し合いではリーダーの差配で進み、いつの間にか、「民主主義は消えてしまった。」

失敗は今後に生かす YR

最後まで、相手側のリーダーシップを崩せなかった。結果リーダーの一人舞台で、展開し、しゃべり続け、見えるか見えない間にパワーポイントをめくり、70枚近く消化していた。

いつもの口癖「Trust Me」も出てこなくなった。

もちろんその後、仲良く食事をし、写真もとった。

台湾の民主主義が私たちは気にかかる。失敗をしていいようなプレゼンテーション大会ではなかったのではと、先生たちと反省した。

教訓 I.K

- ・先駆者たちのプロセスに学ぶことを、条件にチームを組む。24年も続け、必ずそこには学ぶポイントがあるはずであることを、お互い確認し、それが出来なければ、チームを組まないぐらいの覚悟がいる。特に今回初めてのリーダーだったのでその点をしっかりと認識できるよう、相手側の先生にもお願いすべきだった。

- ・ 一人のリーダーに任せず、準備期間の半分を原稿、スライド、後半を立ち読みに当てる。 暗記におらないよう、ASEP研修にあったよう英一日 日-英の練習で「自分の言葉」でのプレゼンテーションになるよう、特に現地に入ってからは頑張る。

この後私たちは 韓国でプレゼンをする、今回の教訓を大切にしながら。